

2015 年 9 月

No.450

スギ ^{ひかり ぶ そく} 光不足 ^{そだ} をのりこえて育つ

富山県の面積の ^{めんせき} 70% は森や林で、その中で ^{もつと} 最も多い木がスギです。神社や水田地帯の屋敷には ^{ちたい やしき かなら} 必ずといっていいほど植えてある普通 ^{ひとつぶ たね たいぼく} の木ですが、一粒の種が大木になるまでの道のりは、簡単なものではありません。

右上の写真は、^{め ば} 芽生えて 2 年目のスギの赤ちゃん。大きくなると身長約 30m、ウエスト約 5m の大木に育ちます（右下の写真）。

小さなスギの一番の敵は、^{てき} 光不足。森の中は、地面に近い場所ほど、木や草の影 ^{かげ} になって暗いので、地面に落ちてしまった種は、芽を出してもすぐにかれてしまいます。写真の赤ちゃんスギは、何年も前に ^{たお} 倒れて腐りかけている木の上で育っています。地面より 1m ほど高い場所なので、草に ^{おお} 覆われることなく芽生えて、ようやく 10cm に育つことができました。

光不足の問題はまだ続きます。この場所の光の ^{りょう} 量は生きていくだけでもぎりぎりなので、1 年間に ^の 伸びる長さはわずか 5cm ほど。30 年たっても身長約 150cm、ウエスト 1-2cm にしか ^{あな} なれません。

スギの子供は、なぜこんなに苦しい思いをして、何年も耐え続けるのでしょうか。それは、待っていれば、近くで光をさえぎっていた大木が倒れて、強い光が自分に当たる日が来るかもしれないからです。大木が倒れた直後には、森の屋根に大きな穴 ^{あな} があいたかのように、空から強い光がふり注ぎます。するとスギの子供たちは、がぜん元気になってぐんぐん伸びていくのです。

私たち人間の一生の時間から考えるとのんびりしていますが、森で 500 年・1000 年生きるスギにとっては、30 年はわずかな時間なのでしょう。生き物には、それぞれの ^{せいちょう} 生長のための ^{さくせん} 作戦があるようです。（太田道人）

